

第4回緑の基本計画検討部会 摘録

1 開催日時

令和7年1月31日（金）午後2時00分～3時30分

2 開催場所

京都市役所分庁舎4階 第4会議室

3 出席者（五十音順、敬称略）

委員

7名出席（欠席なし）

委員 天野 晴美

委員 井原 縁

委員 谷 萌子

委員 内藤 光里

委員 深町 加津枝

委員 町田 誠

委員 山田 豊久

事務局

建設局みどり政策推進室

室長 永田 盛士

事業促進担当部長 朝山 勝人

みどり企画課長 山本 真史

担当係長 兼村 星志

4 次第

(1) 開会

(2) 審議

次期計画の素案（全体像）

(3) 閉会

5 会議録 <委：委員、事：事務局>

議題：前回部会を踏まえた変更点について

<変更点①：鳥瞰図の分かりやすさ向上>

委：

一般的な鳥瞰図はこれまで南側からの視点が多いが、北側の宝が池公園から見る視点（p9）は斬新だと感じた。計画の誌面でも、北側からの鳥瞰図を掲載できると良い。

委：

鳥瞰図（p7）について、非常に分かりやすくなった。社寺の色が明るくなり、以前よりも浮かび上がって見え、存在がよくわかるので良い。詳細スケール（p8）では、社寺境内地を面として認識できるよう、点ではなく領域が分かるような着色ができると良い。

凡例について、色分けも重要ではあるが、京都市内にみどりがどれだけ存在しているのかを知るという意味で、河川や社寺、農地も含めた全体を緑一色で塗ったものも見てみたい。

事：

鳥瞰図について、色調を緑に統一したものを次の部会内でご提示し、さらに議論したい。社寺境内地の面的な表現は、すべての社寺については難しいと思われるが、代表的なものだけでも対応したい。

委：

社寺が青色で着色されていると水辺のように見えてしまうので、異なる色を使用した方が良い。

委：

鳥瞰図の示し方について、社寺が青色であることは違和感がある。社寺境内地も歴史的な意味では公園空間と言え、公園と同色にしても良い。色を分ける場合は、緑色のグラデーションで変える程度で、全体にどれだけみどりがあるかが非常に明確に見えるようになるのではないかな。

鳥瞰図のスケール別の案について、誌面には詳細スケールのものを複数掲載するのか、それとも1つに絞って掲載するのか教えてもらいたい。

事：

鳥瞰図はこれまで地域全体と市街地の2種を想定していたが、さらに寄った図を追加した3種の図の方が効果的で分かりやすいと考える。当初はp7のスケールを想定しており、もう少し寄ったスケールがp9、さらに寄ったスケールがp8である。

委：

北側から見る視点（p9）は斬新で、京都の三山と南に抜ける水の骨格が分かるが、寄りすぎているため見えにくいという難点がある。北側からのアングルでは、生活者目線で大事な東と西の山の眺望が分かりにくい。北側と南側の双方向からのアングルを取り入れることで、全体の骨格が分かりやすくなるのではないか。どこか特定の地区を切り取るのではなく、東西又は南北の双方向といったみどりの骨格が分かるものが適切だと考える。

事：

スライド資料と誌面とで印象が変わると思うので、次回以降は誌面に落とし込んだバージョンを何パターンか示して、議論していきたい。

委：

鳥瞰図について、スケールが広域から市街地に寄っていくが、眺める方角は変えない方が分かりやすい。

事：

スケールの向きを南にしても北にしても、奥の方がどうしても小さくなってしまうので、その点にも配慮しながら検討する。

＜変更点②：「豊かなくらし」平面図の改善＞

委：

「豊かなくらし」平面図の案は、もう少し鮮やかな色の方が良い。

事：

今回の案は、カラーユニバーサルデザインに配慮し、このような色合いとしている。華やかな色合いを重視したものと、2 パターン作成することも検討する。

委：

平面図については、先ほども意見があったように鮮明な色の方が理解しやすいと思われるため、可能な範囲で修正を加えてもらいたい。

＜変更点③：施策の方向性「にぎわい」について＞

委：

今回の変更は、全体的によく検討され、内容が簡潔になった。特に「施策の方向性 方針2：文化・にぎわい・くらしの視点」を「くらし・活力」を軸に再検討した点が、ブラッシュアップされている。

委：

「施策の方向性⑥」（p15）について、「連携」という言葉はよく聞くがイメージしにくいと思っており、「地域力の発揮」に修正され、わかりやすくなった。

委：

「施策の方向性⑦造園力の活用」（p15）について、一般市民にとって「造園力」という言葉が理解されるか不安がある。例えば、「庭園、公園を健全な姿に整備・維持保全し、人との良好な関係性を形成する伝統技術」というように、造園力について解説する必要があるのではないか。

委：

「造園力」という言葉は、造園業界としてはPRしてきたが、ピンとこないと思うので解説文を入れるのは賛成である。

委：

「造園力」という言葉は、説明があれば理解できる。

委：

「造園力」という言葉は業界では使われるが、技術だけでなく、心や思想、知識などトータル的な要素で良好な環境を作り上げるものである、と但し書きをつけて、アピールしていくと良い。

議題：魅力発信パート（1章～4章）について

委：

計画の冊子をどこかに置くのか。デジタル化した写真でも良いが、観光案内所等で掲示を行ってはどうか。四季折々のみどりがわかるような写真を使用することで、見に行こうと考える観光客も増えるのではないか。

事：

今のところ、紙冊子の配架は考えていない。鳥瞰図も含め、より四季折々の季節感が出せるように検討したい。

委：

第2章「みどりの魅力」の「名木」ページ等で樹木の写真を採用するときは、先枯れ等のない、元気の良い樹木の写真を使用してほしい。

委：

掲載写真について、「京都市みどり政策推進室 撮影」とあるが、行政担当者のクレジットが入ることで、行政が愛情を持ってみどりの基本計画を作っていることが伝わって良い。できれば全ての写真にクレジットを入れると良い。

「川」の写真（p26）は、引きの写真が使われており、都市の骨格となる重要な要素であることはわかるが、例えば高瀬川沿いを楽しそうに歩いている様子など、人々との関わりが分かる写真の方が心に響く。写真を選ぶ際には、「人」や「暮らし」などを意識してほしい。人影や、人の気配を感じる写真が増えると良い。

事：

写真のクレジットは部署名まで記載するようにする。策定までの期間で、人の写っている写真も集めていきたい。

委：

第2章「みどりの魅力」に掲載する写真は、日常的に人々が目にする風景を撮影するのが最適だと思う。

みどりの分類の中で「校庭」が挙げられているが、教育機関のキャンパス等は「敷地の緑化」にも含まれる。「敷地の緑化」は、公開空地も含めた事業地の緑化が主にイメージされる。京都市では市街地を中心に事業地や道路との接続性を高める取り組みが進んでおり、居住地と私有地の敷地緑化には当てはまるが、教育機関のキャンパスは特殊であるため、整理が必要である。

事：

みどりの分類について、定義や区分に関して課題があるため、再度検討を行いたい。

委：

「敷地の緑化」において、京都市での雨庭の取組は入らないのか。

事：

雨庭は「敷地の緑化」という見方もできるが、街路空間で実施しているため、その点の整理をしていく。魅力発信パート以外でも写真を使う予定であり、雨庭の写真もどこかで掲載したい。

委：

掲載されている写真を見て、現地に行ってみたいと思った方のために、撮影場所などの具体的な情報も書いてあると良い。

また、第4章「メッセージ」の写真は、これまでの取組やワークショップの様子写真を掲載し、前計画との連続性が伝わると良い。

事：

デジタルブックでは、文字をクリックしてホームページにリンクする方法もあるので、使いやすく見やすい形で考えていきたい。

委：

写真が多くて、見やすく、分かりやすいので、最後まで見る気になるような計画でとても良い。

イラスト（p30）について、文章（グループのタイトル）が分かりにくくとも、イラストを見れば理解できる構成で良い。「picture」の部分もイラストになるのか。

事：

「picture」の部分もイラストを作成し、最終的に1グループにつき2枚のイラストを掲載する予定である。

委：

一般市民の方に、第5章からの計画パートまで読んでもらえるかという不安もある中で、第4章「メッセージ」の作り方が重要になる。市民や事業者、観光客に向けて語りかける部分であり、「協力してもらいたい」というのではなく「みんなで、自分たちのために作っていこう」というメッセージが伝わると良い。ボリュームは控えめにして、気持ちや意識が高まるような内容を盛り込んで、普及啓発の役割を果たすように記載してほしい。

議題：計画パート（5章～7章）について

委：

誌面のデザインでは、写真を多く使用し、余白を多く取ることが重要である。みどりにおけるニーズは「ゆとり」や「安らぎ」が大きいという本質から考えると、ゆったりと楽しめる冊子デザイン自体が計画の思想を表すといえ、京都市にとって非常に大切な部分である。

第5章「計画の概要」にある計画の位置づけや背景については、きっちり書く必要があり文字量が増えがちであるが、その際も余白を確保し、誌面全体の方針とのバランスを取ることが大切である。

また、第7章「各みどりの方向性」において、写真を5枚掲載するのはやや多く、余裕がないように感じるので3～4枚に減らした方が良い。多様な写真を使うのも良いが、1枚1枚に大事な意味を持たせることが重要である。

事：

ゆとりや余白等、一貫した誌面のデザインとなるように検討していく。

委：

第4章「メッセージ」程度の文字の大きさなら読みやすいが、第5章「計画の概要」（p35）では文章が増え、読み飛ばしてしまうかもしれない。

事：

写真や図表をできるだけ使いながら、視覚で雰囲気がわかり、本文を読んだら理解できるように、余白やゆとりも持たせつつ、工夫する。

事：

資料編の「検討の経過」では何を記載するのか。

事：

本検討部会等について記載する。

委：

計画は抽象的な部分を含んだものとなるが、企業や市民がみどりを守っている具体的な事例等を幅広く紹介すれば、よりイメージが湧きやすくなる。すべての事例を計画内に盛り込むのは難しいので、コラム等で小出しにして詳細は別に記載するなど、計画を読んでもらうように誘導する形で、継続的な発信があると良い。

事：

計画はデジタルブックとしてホームページで公開し、それとは別にコラムのリンクを並べて発信する等、効果的な方法を検討していきたい。（以上）